

2025年3月18日

各位

株式会社 J-オイルミルズ  
日本トランスオーシャン航空株式会社  
太陽石油株式会社  
NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）

**沖縄県で採取した、食用に適さない植物の種子から生成した国産 SAF を用いたフライトを  
3月25日に沖縄県内路線（JTA565便／那覇発宮古島行）で実施します  
～沖縄県内路線では初めて国産 SAF をフライトに使用、脱炭素社会実現に貢献～**

株式会社 J-オイルミルズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長執行役員 CEO：佐藤 達也）、日本トランスオーシャン航空株式会社（JTA、本社：沖縄県那覇市、代表取締役社長：野口 望）、太陽石油株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山本 堯大）、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）は、3月25日（火）の沖縄那覇発宮古島行きの JTA565 便において、燃料の一部に沖縄県で採取した食用に適さない植物の種子（テリハボクおよびポンガミア<sup>※1</sup>）から生成した国産 SAF（持続可能な航空燃料）<sup>※2</sup> を用いたフライトを実施します。本施策は、NEDO 助成事業である「バイオジェット燃料生産技術開発事業/実証を通じたサプライチェーンモデルの構築」（以下、本事業）<sup>※3</sup> の一環で行います。

国産 SAF を使用したフライトは沖縄県内路線では今回が初めてのこととなり、今後の沖縄県における循環型エネルギーの地産地消、および脱炭素社会への貢献が期待されます。



図 1 テリハボクの種子

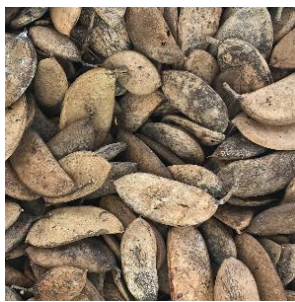


図 2 ポンガミアの種子

図 3 テリハボクおよびポンガミアの  
種子から生成したニート SAF

## 1. 背景

航空業界における二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量削減の具体策として、SAF の安定供給の実現に対する社会的な要請が高まっています。日本では 2030 年にジェット燃料使用量の 10% である 172 万 kL 相当を SAF に代替する目標が掲げられており、最も早く大規模生産が見込まれているのは、廃食用油を原料とする SAF となります。燃料として利用可能な日本の廃食用油は最大年間 13 万トン（約 14 万 kL）<sup>※4</sup> であり、2030 年に向け世界全体の SAF の需要が増大することを考えるとバイオマス資源の多様化が不可欠です。

## 2.本取り組みの概要

J-オイルミルズは、沖縄県管理道路の街路樹から落下した食用に適さない植物のテリハボクおよびポンガミア<sup>※1</sup>の種子を用いて、当該植物に適した搾油・精製工程を開発し、SAF化<sup>※5</sup>の工程を経て、ニート SAF<sup>※6</sup>の生成に成功しました。今回生成したニート SAF は、国際品質規格である「ASTM D7566 Annex A2」<sup>※7</sup>への適合を確認しています。太陽石油は、当該ニート SAF と従来のジェット燃料との混合を行い、このたび JTA が国産 SAF を使用したフライトを実施します。なお、一連の J-オイルミルズの SAF 研究は NEDO 事業<sup>※3</sup>において実施しています。

## 3.フライトの概要

- ・実施日：2025年3月25日（火）
  - ・実施場所：那覇空港
  - ・実施便名：JTA565 便（沖縄那覇発宮古島行、定刻 15 時 35 分発）
- ※実施便は変更となる可能性があります。
- ・実施機材：ボーイング 737-800 型機（165 席）



図 4 当日使用予定の機材と同型機

## 4.各者の役割と意義

### 株式会社 J-オイルミルズ

食用油メーカーの J-オイルミルズは、沖縄県で採取したテリハボクおよびポンガミア<sup>※1</sup>の種子から搾油・精製した油脂を用いて、本フライトの燃料として使われるニート SAF の製造を担います。

食用に適さず、食料と競合しない種子を活用することは、食料問題だけでなく、SAF の普及にも貢献できると考えています。今後はテリハボクとポンガミアの栽培実証試験などを通じた原料供給量拡大に向けた取り組みを進めてまいります。

### 日本トランスオーシャン航空株式会社（JTA）

JAL グループの中で沖縄県に拠点を置く航空会社の JTA は、SAF を使用した本フライトの運航を担います。

SAF の利用は航空業界における CO<sub>2</sub> 排出削減の重要な手段の一つであり、JAL グループでは 2030 年までに全燃料搭載量の 10% を SAF に置き換える目標を掲げています。沖縄地区 JAL グループでは、JTA が主体となり推進している SDGs 活動「結∞ACTION」の一環として初めて SAF フライトを運航します。沖縄県で採取した原料から生成された SAF を使用することは、将来的には沖縄県における循環型エネルギーの地産地消につながる取り組みであると考えています。

### 太陽石油株式会社

石油元売の太陽石油は、同社沖縄事業所において本事業で生成されたニート SAF と従来のジェット燃料を混合し、航空機に SAF を供給する役割を担います。

太陽石油にとっても SAF の供給は初めての試みとなりますが、沖縄事業所では SAF 製造・供給のさらなる拡大を計画しており、今後も高付加価値な燃料の製造・供給を通して国内産業の競争力強化や沖縄の地域創生に貢献してまいります。

## NEDO

「エネルギー・地球環境問題の解決」と「産業技術力の強化」をミッションに掲げる NEDO は、「研究開発マネジメントを通じたイノベーション創出」「政策立案や研究開発マネジメントに貢献する技術インテリジェンスの強化・蓄積」に取り組み、社会課題の解決、経済および産業の発展に寄与します。

NEDO は、J-オイルミルズの SAF 研究への助成事業<sup>※3</sup>による SAF 製造技術の確立に向けた支援を通じ、研究開発の成果として SAF の社会実装の一層の促進に貢献してまいります。

## 5. 今後の展望

本フライトを通じて、地域資源を活用した脱炭素社会の実現に貢献します。今後は沖縄県での試験栽培など SAF 原料の栽培拡大や SAF 使用拡大など地産地消の SAF 普及に取り組み、未来の航空業界を支える新たな技術とビジネスモデルの創出を目指します。

### ※1 テリハボクおよびポンガミア

日本では沖縄県、海外では東南アジアなどに分布する亜熱帯植物で、沖縄において主に街路樹や防風林として利用されています。テリハボクはその胚珠中の油分が 40%~50%、ポンガミアは 30%~40%と多く、乾燥地や塩分濃度の高い土地など農地に適さない土地でも栽培可能です。

### ※2 SAF

Sustainable Aviation Fuel の略で、持続可能な航空燃料を意味します。持続可能性の条件を満たした再生可能あるいは廃棄物を原料とし、化石燃料と比較して GHG 排出量を低減可能なジェット燃料を指すものです。

### ※3 本事業

事業名：バイオジェット燃料生産技術開発事業／実証を通じたサプライチェーンモデルの構築／食料と競合しない植物油脂利用による SAF サプライチェーンモデル構築および拡大に向けた実証研究

事業期間：2022 年度~2024 年度

事業形態：助成事業

事業概要：概要資料 <https://www.nedo.go.jp/content/800017536.pdf>

### ※4 燃料として利用可能な日本の廃食用油は最大年間 13 万トン（約 14 万 kL）

全国油脂事業協同組合連合会「UC オイルのリサイクルの流れ図（令和 3 年度版）」（令和 4 年 4 月）を基に NEDO にて試算しています。[URL:https://zenyuren.or.jp/document/220407\\_ucorecycleflow\\_r3.pdf](https://zenyuren.or.jp/document/220407_ucorecycleflow_r3.pdf)

### ※5 SAF 化

SAF 化工程（水素化・異性化・蒸留）は J-オイルミルズから環境エネルギー株式会社（広島県福山市、代表取締役：野田修嗣）に外部発注しています。

### ※6 ニート SAF

バイオマス原料などを基に製造された純度 100%のジェット燃料を指します。当ニート SAF は最大 50%を上限として化石燃料由来のジェット燃料と混合した後、SAF として使用されます。

### ※7 「ASTM D7566 Annex A2」

ASTM インターナショナルが定め国際的に認められた「SAF に対する航空燃料としての規格」となります。さまざまなニート SAF 燃料の製造システムが評価され、エンジンメーカーや航空機メーカーなどからなる専門家による各種試験、さらには委員の承認を経て、新しい Annex として ASTM D7566 に含められます。なお 2024 年 8 月現在、Annex A1~A8 まで承認されています。

#### ■ご参考（関連プレスリリース）

- ・2025年1月29日発表

新たな SAF 原料確保への期待となる、食用に適さない植物のテリハボクとポンガミアから 100%バイオマス由来 SAF の生成に成功しました —国際品質規格である「ASTM D7566 Annex A2」に適合—

[https://www.j-oil.com/press/article/250129\\_006975.html](https://www.j-oil.com/press/article/250129_006975.html)

- ・2024年10月15日発表

非可食植物のテリハボクの種子から SAF（持続可能な航空燃料）成分を含む油の生成に成功  
- 「BioJapan2024」で研究成果を発表-

[https://www.j-oil.com/press/article/241015\\_006739.html](https://www.j-oil.com/press/article/241015_006739.html)

- ・2023年8月28日発表

植物油メーカーが“食べられない油”に挑む！ SAF（持続可能な航空燃料）の実証研究が国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）公募事業に採択されました

[https://www.j-oil.com/press/article/230828\\_004233.html](https://www.j-oil.com/press/article/230828_004233.html)